

〔共済連だより〕

家畜診療日誌

北部基幹家畜診療所 水戸 康明

今年の4月から NOSAI 岡山の北部基幹家畜診療所で働くことになりました水戸と申します。大学時代を山と海に囲まれ、自然豊かな鳥取ですごしました。卒業後に熊本のワクチンメーカーで4年働いていましたが、転職し大動物臨床の道にすすみました。

転職後の3年間は、熊本で牛の診療と人工授精をしていました。熊本は、乳牛の飼養頭数が45,000頭と西日本で一番多く、また、肉牛も黒毛和種に加えて、褐毛和種（あか牛）がおり畜産が盛んな県です。火の国といわれるだけあって、6月下旬から10月上旬まで最高気温が30度を越す真夏日が100日くらい続くこともあります。牛にとっては、暑熱ストレスがかなり問題となっています。種はつかないし、病気も多くなります。もちろん牛舎の扇風機はずっとまわりっぱなし、牛舎内では細霧に吹き付けられ、屋根の上ではスプリンクラーが回っていました。牛はもちろんきつい季節ですが、農家さんもデントコーンのサイロ詰めがあり（熊本ではデントコーンを2期作しています）、自分も汗だくになりながら直腸検査をする毎日でした。熊本の夏は人にも牛にも過酷な季節でした。

ただし、熊本の夏でも、阿蘇は別で、熊本市よりも5度くらい気温が低く、牛も人も過ごしやすかったです。阿蘇は野焼きで草が維持されており、あか牛がのんびり草を食べていました。時間があるときには、焼きとうもろこしをかじりながら、阿蘇の風景を楽しんだり、ゆっくり温泉にはいることもできました。

熊本には、馬刺し、からし蓮根、球磨焼酎（米焼酎です）など、食べ物、飲み物もおいしいものがたくさんあり、熊本城や阿蘇、黒川温泉など観光地もたくさんあります。みなさんもぜひ一度遊びにいつてみてください。

岡山にきてからは、まず超音波診断装置（エコー）やポータブル血液分析器（アイスタット）など設備

が充実しているのに驚きました。

繁殖検診にエコーを使うと、子宮内や卵巣を画像化できます。具体的には、早期（25～30日齢）の妊娠鑑定や子宮蓄膿症などの子宮疾患の診断、双子や性別も診断でき、得られる情報が多くなりました。妊娠鑑定のときには、農家さんに胎児の画像をみせて、「ほらほら、ここに胎児が見えて、心臓が動いているのが見えるでしょ」、エコーのおかげで農家さんへの説明もしやすくなりました。

ポータブル血液分析器（アイスタット）は、診療現場ですぐに血液検査結果がわかり、乳熱や尿石症、子牛の下痢症などさまざまな病気の診断に有用です。治療する際にも血液検査結果をもとに治療メニューを組むことができます。私は子牛の下痢症によく使うことがあるのですが、血液検査結果を見ながら治療し、農家さんにもその場で説明します。ぐったりしていた子牛が次の日には、元気よく母牛の乳を飲んでいたりすると、EBM（根拠に基づいた治療）っていうのはこういうものなのだなと実感します。

最後にもうひとつ北部基幹家畜診療所の設備で充実しているものがあります。それは、ビールサーバーです。月1回程度開催している勉強会の後に大活躍しています。診療所のスタッフ、外部の先生、研修に来た学生さんたちとの親睦を深めるのに、明日の仕事への活力にと大活躍しています。

